

製品名: アルドラーゼ B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06769**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	ALDOB
別名	ALDOB; ALDB; Fructose-bisphosphate aldolase B; Liver-type aldolase
遺伝子 ID	229.0
SwissProt ID	P05062
免疫原	抗血清はヒト ALDOB 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 111-160

背景

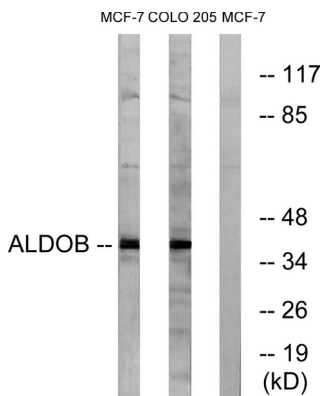
フルクトース-1,6-ビスリン酸アルドラーゼ (EC 4.1.2.13) は、フルクトース-1,6-ビスリン酸からグリセルアルデヒド 3-リン酸およびジヒドロキシアセトンリン酸への可逆的な変換を触媒する四量体解糖酵素です。脊椎動物には、電気泳動特性と触媒特性によって区

別される3つのアルドラーゼアイソザイムが存在します。これらの違いは、アルドラーゼ A、B、C がそれぞれ異なるタンパク質であり、関連する「ハウスキーピング」遺伝子ファミリーの産物であり、異なるアイソザイムの発現が発達的に制御されていることを示しています。発生中の胚はアルドラーゼ A を産生し、成体の筋肉ではアルドラーゼ A の産生量が増加し、細胞タンパク質全体の 5% にも達することがあります。成体の肝臓、腎臓、腸では、アルドラーゼ A の発現が抑制され、アルドラーゼ B が産生されます。脳やその他の神経組織では、アルドラーゼ A と C がほぼ同量に発現しています。高い触媒活性があります: D-フルクトース 1,6-ビスリン酸 = グリセロンリン酸 + D-グリセルアルデヒド 3-リン酸。疾患: ALDOB の欠陥は、遺伝性フルクトース不耐症 (HFI) [MIM:229600] の原因です。HFI は常染色体劣性疾患であり、フルクトースおよび関連糖を代謝できなくなります。フルクトースを完全に排除すると劇的な回復をもたらされますが、適切な治療が行われない場合、HFI の患者は低血糖、全身状態の低下、および生涯にわたる死亡リスクに苦しみます。、その他: 脊椎動物には、この遍在する解糖酵素の 3 つの形態が見つかります。筋肉にはアルドラーゼ A、肝臓にはアルドラーゼ B、脳にはアルドラーゼ C です。、経路: 炭水化物の分解; 解糖; D-グルコースから D-グリセルアルデヒド 3-リン酸とグリセロンリン酸を生成する: ステップ 4。、経路: 炭水化物の分解; 解糖; D-グルコースから D-グリセルアルデヒド 3-リン酸とグリセロンリン酸を生成する: ステップ 4/4。、類似性: クラス I フルクトースビスリン酸アルドラーゼファミリーに属します。、サブユニット: ホモテトラマー。、

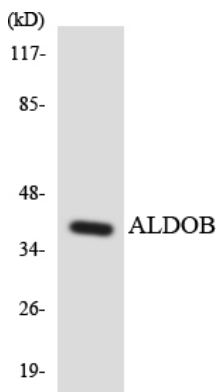
研究分野

解糖系/糖新生; ペントースリン酸経路; フルクトースおよびマンノース代謝;

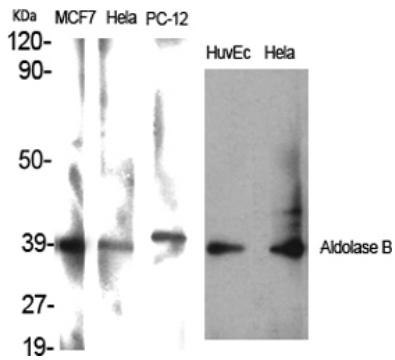
画像データ



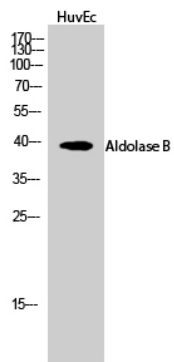
ALDOB 抗体を用いた MCF-7 細胞および HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



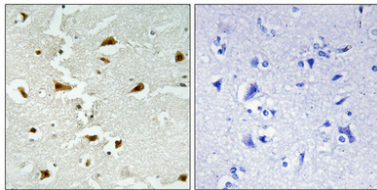
ALDOB 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



アルドラーゼ B ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



アルドラーゼ B ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。